

Appendix. 一連のファイルの関係

本稿にて紹介した生成AIを活用し、「知財情報の分析結果を活用し、事業に資する提言を行う」自動化ボットの構成を示します。**入力ファイル**を定義し、**出力ファイル**を設定することで、分析が可能です。**上段は一般論でありツール非依存、下段はGemini Notebookを用いた実装例**です。

論理構造(ツールに依存しない共通の枠組み)

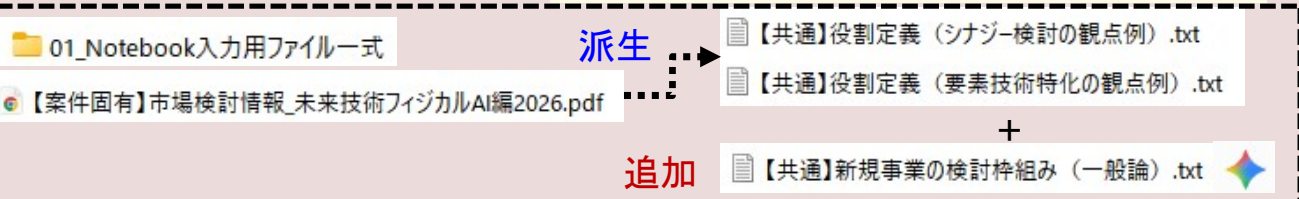
基礎資料(Gemini Notebook相当分)の準備		拡張処理(RAG)の準備と活用	
STEP1 情報収集	STEP2 分析ファイル準備	STEP3 Gemini設定	STEP4 分析実施・出力
分析対象市場の選定 基礎資料の収集	分析処理を行うためのフレームワークを定める。	分析処理を行うための「ツール」を設定する。	AIにたいして指示を行い、結果を出力させる
● 勝ち筋を検討したい市場について情報を収集し、 基礎資料 を収集する。	● 分析に適したフレームワークにそって、「 共通ファイル 」(AIに 分析枠組みを提示するもの)を用意する。	● 「 基礎資料 」と「 共通ファイル 」を「 判断根拠と設定 」。 ● 「 新規事業提案 」と、そのための「 情報収集 」を目的と設定。	● 文章のみならず、「 図面 」、「 ウェブサイト 」等の出力方法を設定し、編集可能ファイルを出力し、分析実施。

(実装例) Gemini Notebook部分にて下記設定

Gemini Notebookに「**特許情報起点とした業界潮流レポート(フィジカルAI編)**」を「**入力用資料**」と指定

下記2方法で「**共通ファイル**」を準備

- Gemini Notebookにて「**勝ち筋**」抽出
- Geminiにて、「**新規事業の検討枠組み**」をできる限り多角的に検討出来るよう類型抽出



(実装例) GEMIにて知識(根拠)と指示設定

● 「NotebookLM」ファイルを「**知識**」指定。

● 「カスタム指示」にて「**情報収集**」と「**分析**」をそれぞれ目的設定。

知識 ⓘ

Canvas ▾

「**Canvas**」活用し
Web検索と分析
を実施

カスタム指示 ⓘ

用途
入力情報と、ウェブ調査結果をあわせ、具体的な製品情報や技術情報の根拠をもって、事業提案を行う。技術情報と市場情報を用いる。

目標
*私の関心事項について、プロンプトに沿って、根拠のある事業提案を行う
*私と協力し、事業提案の根拠となる関連情報を探す
*最終出力結果は提案毎に可能な限り根拠情報のビジュアルを用いて編集可能なフォーマットにする